

第2章 教育を取り巻く社会情勢

第1節 今の教育の現状と課題

1 少子高齢化による危機感

晩婚が多いことや、独身生活が長くなるにつれて結婚する機会が少なくなることで未婚率も上昇し、男女ともに晩婚化・非婚化の傾向が進んでいます。このことによって生産年齢人口も減少し、出生率も低下傾向にあり、少子化現象はますます進む傾向にあります。

また、人口構造は高年齢層が明らかに膨らんでおり、死亡数が出生数を上回る「自然減少」の傾向が進んでいることで、少子高齢化社会がさらに拡大化しているといっても過言ではないでしょう。

このような状況において、誰もが安心して健やかな子どもに育てられる環境を整えるとともに、一人一人が生涯にわたって能動的に学び続けられるような社会を築き上げる必要があります。

2 家庭教育の役割と地域社会

家庭は人格形成のために、重要な役割を担っており、基本的な生活習慣やしつけの問題、親子関係の大切さなど、家庭教育が重要であることはいうまでもありません。しかし、現実には核家族や少子化の課題があり、家庭教育力の低下が懸念されています。

かつては、家庭教育の弱さを補うように、地域の人々が社会でのマナーやルールを教え、地域活動を通して他人への思いやりや善悪の判断などを知る場として大きな役割を担っていましたが、最近では、隣近所や人と人とのつながりが希薄化し、家庭や地域での教育力の向上が課題となっています。

3 人々の価値観の多様化

時代が進むにつれて、人の考え方や価値観も多様化し、一人一人の感性や個性を重視する傾向が見られ、その中でも特に互いに相手を思いやったり、支え合ったり励ましたりするような「心の育成」が求められています。

4 高度情報化社会とグローバル化の進展

コンピュータ技術の開発によって情報通信技術がさらに進展し、高度経済成長とともに人工知能が発達するなど、人間の労働力が軽減化されています。また、高度情報化社会となり、世界との通信交流を瞬時に行うことができるなど、グローバル化が加速化し、多くの国々とのコミュニケーションがいつでもどこでも可能になってきています。このような国際社会の中で活躍し、創造性豊かな人財を育成することが望まれています。

第2節 村の教育の現状と課題

1 田舎館村の教育

田舎館村教育委員会では、毎年「田舎館村教育方針」を掲げ、村民一人一人が豊かな心と郷土に対する誇りを持ち、健康で創造性に富み、広い視野で物事を見つめながら、変化の著しい社会にも主体的に対応できるような村民の育成を目指して教育の推進に努めています。

2 学校教育の現状と課題

本村では小学校が1校と中学校が1校あり、小中学校による連携が非常に良い形で進んでおり、学習面はもちろんのこと、生徒指導や学校行事についても互いの協力体制が良いため、小中学校の接続が滑らかに進んでいます。また、将来的に小中一貫教育が促進できる環境となっており、施設の一体化を含めてさらにより良い教育環境の充実が期待されます。

一方では、小学校の全国学力学習状況調査と県学習状況調査結果を分析してみますと、学力向上のため指導方法の工夫と改善に努める必要があり、徹底した基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得できるような手立てが必要です。

3 家庭学習と基本的生活習慣

学力向上のためには、家庭学習を欠かすことはできません。ところが、学習意欲がない子どもたちや学校の授業に集中できない子どもたちは、家庭での繰り返し学習が少ないため、基礎的・基本的知識が十分に身に付いていません。

その課題を解決していくためには、まず家庭での繰り返し学習が重要課題となります。つまり、毎日の家庭学習を習慣化させることで、学習理解度が蓄積され、そのことで学力の向上にもつながっていきます。

そのためには、やはり幼児期からの基本的生活習慣がとても重要であり、幼児期からの家庭教育にもしっかりと目を向けることが肝要です。そのひとつの対策として、村内の保育園(所)やこども園を中心に家庭教育学級等を行い、基本的生活習慣の大切さについて保護者が学ぶ機会を設けることも重要です。

4 村の人口動態と教育の役割

本村の人口動態は、昭和55年に10,053人でしたが、それ以降一貫して減少しており、平成30年5月末現在7,911人となっています。平成29年に入ってから8,000人台を割っており、本村でも少子高齢化が進行しています。

そこで、教育環境の安定化を図ることで学校教育の質を高め、人口動態の**自然減少**よりも**社会増加**となるような「子どもの教育にとって住みよい村づくり」を進めていくように努めていかなければなりません。村内外から誰もが「住みたい村」となるように、時代に即応した教育環境を整えていく必要があります。